

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名（注1）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-（事務局用）	地域コミュニティにおける課題の設定と解決に向けた協働による新たな取り組み	那覇市
チームがつけたアイデア名（公開） （注2）	近所の公園が私のお庭プロジェクト		

（注1）地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名（公開）	たのしむぞ〜06！（なは市民協働大学院 小禄チーム）		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	1	
メンバー数（公開）	6名		
代表者（公開）	加島 鈴乃		
メンバー（公開）	石垣 真由美、我那覇 健太、平良 和、照屋 里沙、仲間 友作		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズのCC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 確認後 OK なら右に○印を記入⇒○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、**何を**する社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい**なる、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイント<u>はこれです！</u>をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

私たちがターゲットとした地域は、自治会が無く、集合住宅が多い地域です。これまでこども会が消滅し、民生委員は現在欠員状態。住民同士のつながりが見えづらい状況です。また、海拔が低い上に、小学校の通学路は冠水しやすい地点もあり、地震・津波だけでなく災害と隣り合わせの地域です。

いつ訪れるか分からない「もしもの時」に誰を頼っていいか分からない、誰を助けてよいか分からない、「共助」が難しいという課題があります。助け合えるために、顔の見えるゆるやかな関係性づくりが求められます。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

集合住宅が多い地域だからこそ、「**近所の公園が私のお庭**」を合言葉に、当地域にある公園を活用した「顔のみえる関係性づくり」のきっかけの種（定期的な「あったかイベント」）をまいていきます。

まずは、公園を利用するこどもの「公園は好きだけどベンチが汚い」の声を受け、こども達、近隣にお住まいの方、学生ボランティアと一緒に公園ベンチのペンキ塗りを行い、地域住民が集いやすい公園づくりに取り組みます。ベンチのペンキ塗りは、SDGs パスポートを活用した学生ボランティア、企業ボランティア、DIY 好きの方、那覇市公園管理課の協力を想定しています。

公園内にベンチが 10 基あるので、複数回に分けて塗りながら、「私のお庭でやりたいこと」を実現する「あったかイベント」を開催していきます。

「あったかイベント」では、子育て相談に乗りたい、勉強した防災の知識をお隣さんと共有したい、こどもと絵本を作りたい、お隣さんとおもちゃの交換イベントをしたい、など、地域の人が、一人では実現が難しい、諦めていたことのトライアルの場として公園を活用します。毎回のイベントでアンケートやヒアリングを行い、Instagram等の媒体を通じて、「あったかイベント」でやりたいことを共有します。**地域の人が、やりたいことを実現しながら、地域のつながりをつくることで、地域の防災力も自ずと高まる、という未来を目指します。**



「誰が」始めは私たち「たのしむぞ〜06！チーム」がやりたいことを試行。どのような手続き、準備が必要なのか探り、次回以降は様々な参加者の、やりたいこと実現の「サポート・運営」を行う。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

参加者は公園まで徒歩圏内の地域住民、地域企業、福祉団体、学生ボランティアを想定している。

【いつ】 2～3 か月に 1 回程度 公園を活用するので過ごしやすい季節を想定。

【どこで】（まずは）小祿 1 丁目にあるひよどり公園で実施。「あったかイベント」のサイクルができれば、近隣の小規模な公園へ波及していきたい。

【どのように】

★STEP1 キックオフイベント

令和 6 年 1 月 6 日に、ベンチ 1 基のペンキ塗り×もちつき のキックオフイベントを開催する。
ペンキ塗りを通して、近所の公園に愛着をもつこと、ボランティアを通して地域づくりに関わる実体験をすること
もちつきを通して、地域の児童デイサービスと地域住民の交流を目指す。
また、参加者とチームメンバーで、または参加者同士で「私のお庭でやりたいこと」についてコミュニケーションをとる。

★STEP2 第 1 回にじいろベンチ+α

令和 6 年 2 月にキックオフイベントを通じて見えた課題をもとに、
ベンチ（複数）のペンキ塗り×「私のお庭でやりたいこと」イベントを開催する。
「私のお庭でやりたいこと」の主体は「たのしむぞ～06！チーム」メンバー及びキックオフイベントでつながった人たちから想定。前回同様、イベント時には参加者とチームメンバーで、または参加者同士で「私のお庭でやりたいこと」についてコミュニケーションをとる。

★STEP3 第 1 回あったかイベント その後

（時期未定）これまでの、イベント企画、開催のトライ&エラーを踏まえ、地域住民、団体の「私のお庭でやりたいこと」を実現する「あったかイベント」を継続開催する。
お客さんでなく、「やりたいことの実現側」で住民や団体が参加することで、公園が「私のお庭」が集まる、交流のきっかけとなる場となる。集合住宅が多く、転入転出の多い地域だからこそ、イベントを継続し、地域住民や団体がつながる場を維持したい。

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ） について、それを サポートするデータを根拠として示しつつ **2 ページ以内** で説

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

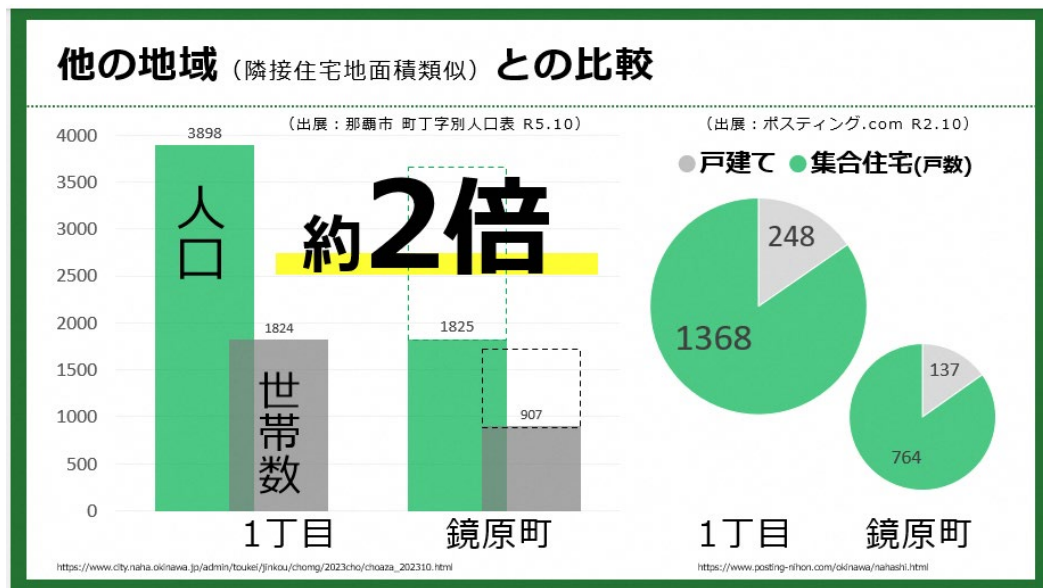
<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

★住民同士のつながりが薄い / が災害等の「もしもの時」はすぐそこにある



・小禄南小校区（赤枠）内、小禄1丁目内の自治会空白エリアであり、地域のイベントはなく、住民同士が繋がるきっかけが少ない地域。



・小禄1丁目は近隣面積類似地域と比較し人口・世帯数・集合住宅の数が多い。
・自衛隊基地も近隣であるため、小学生児童の転入転出も多い。空港まで15分で県外出身者からも人気のエリアである。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

	PTA 役員決定の難航
2016年 春	立哨活動欠員 「小祿南小校区まちづくり協議会」発足で補填
2020年 春	コロナ禍／子ども会自然消滅
2023年 秋	民生委員欠員 充足率45%（小祿地区最低）
2023年 冬	子ども会復活の兆し 無し

図.小祿南小学校校区まちづくり協議会・小祿南小 PTA ヒアリング

- ・小祿南小校区まちづくり協議会、小学校 PTA へのヒアリングによると、小学校の春先の授業参観は保護者の参加率が低かった。学年レクは、一学年たった5名のPTAの係を担う人材がおらず、全学年が開催できない現状。
- ・立哨活動は、担当を事前に決めても横断歩道で係不在が多発している。
- ・喫茶店、ファストフードなど、ちょっとした集まりを行う場所が無いことも特徴。

★住民同士のつながりが薄い / が災害等の「もしもの時」はすぐそこにある



- ・地域の児童館・公民館・学童・こどもの居場所は、今回企画の対象エリア（ピンク枠）から冠水地点を挟んで反対地点。
- ・条件が重なる事で通学路が分断される水害が発生。写真に見えている建物は、スーパーと病院。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. 実現する主体2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス1. 実現する主体

企画作り・つながりづくり たのしむぞ～06！チーム

始めはチームがやりたいことを試行。どのような手続き、準備が必要なのか探り、回数を重ねるにつれて、様々な参加者のやりたいこと実現の「サポート・運営」側に移行する。

主体となるメンバーは徐々に増やしていき、公園まで徒歩圏内の地域住民、地域企業、福祉団体、学生ボランティアを想定している。

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

- ・（ヒト＝ステークホルダー）

ボランティアの協力：魅力のあるボランティア活動とするため、SDG s パスポートの活用を検討。

学校への導入は学校単位での申込みが必要であることから、近隣中学校へ依頼し、

SDG s パスポートを活用した学生ボランティア募集について了承を得ている。

イベント開催時、準備時にボランティアとして携わってくれた学生にボランティア証明書を発行する。

小祿南小学校区まちづくり協議会：チームメンバーとの交流や「なは市民協働大学院」講座の参加、

本活動への助言をいただくなど、ゆるやかな交流がある。今後の活動において、さらなる助言やヒトのつながりを生み出すための役割が期待できる。

※「校区まちづくり協議会」とは、小学校区を範囲として、その区域内で活動する自治会、PT(C)A、地域で活動する個人や企業など、地域の全ての人たちがお互いに尊重し合い、ゆるやかに連携・協力しながら地域の課題解決を図っていく組織。

地域の児童デイサービス：地域の子どもの核とした企画イベントなどを通して、“地域で子どもを育てたい”と思ひあり。地域住民とのつながりを求めており、キックオフイベントに参画決定。

企業ボランティア等：那覇市と協定を結んでいる、公園の維持管理を目的とした企業ボランティアや、登録していなくても地域活動に関心がある地域企業も主体の一部として検討している。

現時点で、イベント自体に協力できる企業はいないものの、イベントの周知依頼（チラシ掲示）やペンキ等の資材提供を継続して呼びかける予定。

- ・（モノ）必要資材等の提供：ペンキ塗りでは、市公園管理課の協力ほか、インスタグラムを通じて足りない資材の提供依頼を呼び掛ける。

メンバーと関わりのある地域住民より、ペンキの提供について知り合いに声をかけてもらう予定。

イベント開催に必要な飾り、のぼり、テーブル、テント等はチームメンバー、市まちづくり協働推進課、市公民館等の既存の持ち物を活用予定。

今後のイベント等での飲食提供(無料提供の場合)については、公園周辺の企業に宣伝を兼ねた

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

提供希望を募るが、基本的には有料提供を想定。

周知について、Instagramや関係団体への呼びかけで行っているが、費用が発生する紙媒体（チラシ等）は現在チームメンバーで作成しているが、大量に必要であったりする場合は後述する（カネ）での補てんを検討する。

- ・（カネ）現時点でお金が必要な大きなイベントは想定していないが、公園愛護会の結成による活動報酬費、イベントでの物販や飲食の販売、なほ市民活動支援事業助成金の活用を検討する。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

★STEP0 現在

なほ市民協働大学院の小祿チーム結成。公園を活用した顔の見える関係性づくりをめざし企画立案。

対象となる公園でアンケートやヒアリング、利用者の観察を行った。

年明けのキックオフイベントに向け、12月よりコラボ先の児童デイサービスの事業者と一緒に企画会議を行っているほか、市へのイベント後援依頼、公園管理課との調整を進めている。

- ・公園の活用に必要な許可申請等の諸手続き、ペンキ塗りの承諾、資材提供について市公園管理課との連携
 - ・他団体（もちつき：児童デイ運営事業者）とタイムスケジュールリング、役割分担等の会議、
 - ・Instagramを活用したメディア発信
 - ・近隣中学校へのSDGsパスポートを活用したボランティアの呼びかけ等
- 必要な他団体との調整、段取りを確かめながら、企画づくりを進めている。

★STEP1 キックオフイベント

令和6年1月6日に、ベンチ1基のペンキ塗り×もちつきのキックオフイベントを開催する。

イベントを通して、当日の運営の流れ、必要な道具を確かめ、次回の開催に活かす。

キックオフイベント当日は参加者へ本企画を伝えるほか、アンケートやヒアリングを通して「私のお庭でやりたいこと」の拾い出しを行う。

★STEP2 第1回にじいろベンチ+α

令和6年2月にキックオフイベントを通じて見えた課題をもとに、

ベンチ（複数）のペンキ塗り×「私のお庭でやりたいこと」イベントを開催する。

「私のお庭でやりたいこと」の主体は、「たのしむぞ〜06！チーム」メンバー及びキックオフイベントでつながった人たちから想定。継続的な活動を見据えて、ペンキ塗りの企業ボランティアとの連携、既存の校区まちづくり協議会との連携、地域企業との連携、企画づくりから関わる学生ボランティアとの連携を目指す。

キックオフイベント同様、参加者アンケートを行い、次回の「あったかイベント」の企画づくりを行う。

★STEP3 第1回あったかイベント その後

（時期未定）これまでの、イベント企画、開催のトライ&エラーを踏まえ、近隣住民、団体の「私のお庭でやりたいこと」を実現する「あったかイベント」を継続開催する。

運営にあたり資金が必要な場合、公園愛護会の発足（愛護会活動報酬をイベント運営へ）、イベントの一部収益化、なほ市民活動支援事業助成金の活用を検討する。

近隣の小規模な他公園や空き地等、地域が持つ資源への展開も視野に、第2回、第3回とつなげていく。